

大型図書紹介記事

【様式3】

選定年度	所属学部	氏名	大型図書タイトル	紹介記事
2019	経済学部	田口律男	日本近代文学・文化文献コレクション(全4点)	<p>このコレクションは、近代日本の文学／文化を多面的に読み解くための資料群です。</p> <p>①『改造社出版関係資料』は、「円本」の成功などで知られる改造社の社主山本実彦旧蔵の資料群です。改造社発行の雑誌に寄稿した作家らの直筆原稿や、原稿料・印税の記録、広告・宣伝に関する文書、関係業者との交渉記録などが含まれています。外部からは見えにくい出版社の内部資料として、たいへん貴重なものです。</p> <p>②『日本浪漫派』は、1935(昭和10)年に、保田與重郎、亀井勝一郎らによって創刊された同人雑誌です。同人は、やがて50余名に達し、そのなかには、太宰治、檀一雄、中河与一、萩原朔太郎などが含まれます。急激にファッショ化していく時代において、一切の政治的なものを排し、日本の美的伝統に回帰していった文学流派として、批判的に再検討されています。</p> <p>③『中央文学』は、文芸書出版の老舗である春陽堂が1917(大正6)年から刊行を始めた文芸雑誌です。新潮社の『新潮』『文章倶楽部』などの後を追うように創刊され、大正期文壇の成立期といわれる期間をカバーする雑誌として重要なものです。広告ページを含め完全複製しており、また表紙絵も一号を除いてすべて竹久夢二が手掛けるなど、大正期の視覚芸術を探求する上でも興味深いものがあります。</p> <p>④『ホトギス』は、正岡子規を中心に、1897(明治30)年、松山で発刊され、現在まで続く俳句誌として著名です。夏目漱石「吾輩は猫である」の初出誌としても知られ、また批評、翻訳も掲載するなど、幅広く近代文学に貢献した雑誌です。表紙絵や挿絵も竹久夢二、岸田劉生、小川芋銭らが描き、美術史上にも高い価値を有します。</p>